

第 77 回カンヌ国際映画祭 パルム・ドッグ賞受賞

第 77 回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門正式出品作品



日本版ポスタービジュアル&場面写真解禁！

第 77 回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門へ正式出品され、パルム・ドッグ賞を受賞し話題となった『犬の裁判』
(原題：LE PROCES DU CHIEN)。3 月 20 日（木・祝）～23 日（日）に開催される「横浜フランス映画祭 2025」
での上映が決定し、初夏よりシネスイッチ銀座・UPLINK 吉祥寺他にて全国順次公開いたします。

この度、日本版ポスタービジュアル&場面写真 4 点が解禁となりました。

前代未聞の法廷劇！被告人ならぬ被告犬！？

実話からインスパイアされた、にぎやかでコミカルなフランス法廷コメディ！

ウィットに富んだ笑いと感動！そして滑稽に社会の不条理を描いた話題作！

負け裁判ばかりで事務所から解雇寸前のスイスに暮らす弁護士アヴリルは、次の事件では必ず勝利を勝ち取ろうと決意していた。そんなときある男から、かけがえのない伴侶で絶望的な状況にある犬のコスモスの弁護を依頼される。コスモスが 3 人の人間に噛みついたというのだ。アヴリルは仕方なく、またも勝ち目のない犬を弁護することに…。法律で犬は“物”と見なされ、飼い主へ罰金 1 万フランとコスモスの安楽死を言い渡されるなか、犬が“物”ではないというアヴリルの主張が認められ、前代未聞の犬が被告となった「犬の裁判」が始まる…。

犬の命がかかった裁判を、にぎやかでかつコミカルに描きながら、人間と動物との関係に疑問を投げかける実話からインスパイアされた傑作法廷コメディ。

監督は、俳優・ダンサー・作家・演劇監督として多彩な才能を発揮している レティシア・ドゥッシュ。第 70 回カンヌ国際映画祭カメラドール受賞作『若い女』(18)で、2018 年のリュミエール賞最有望女優賞に輝き、近年ではジュスト・フィリップ監督作『ACIDE / アシッド』(24) や、2024 年フランスで公開されたアルノー&ジャン＝マリー・ラリュエ監督作『Le Roman de Jim (原題)』など数々の話題作に出演している。本作では主人公の弁護士アヴリルを演じながら、初めて監督を務める。

そして、カンヌ国際映画祭の最高賞パルム・ドッグ賞を見事受賞したコスモスを演じたのは、アクロバティックなサーカス犬の コディ。本作ではサーカス犬としてではなく、彼の内面や感情を出した名演技を見せている。第 76 回カンヌ国際映画祭でパルム・ドッグ賞を受賞した『落下の解剖学』(24) の俳優犬メッシに続き、観客らのハートを驚づかみにした。

日本公開を前に日本版ポスター＆場面写真が解禁！

今回解禁された日本版ポスタービジュアルは、命がかかった裁判を被告犬として法廷の証言台に立つコスモス(コディ)の姿がメインに配されている。完全に常軌を逸した法廷劇ではあるが、にぎやかでかつコミカルに描かれるストーリーと相まって、ポップなビジュアルになっている。また、「彼は無罪か有罪か？」とコピーが添えられ、被告犬・コスモスの行く末がとても気になるところだ。

あわせて解禁となった場面写真は、監督・主演を務めたレティシア・ドゥシュ演じる弁護士アヴリルと彼女へ弁護を依頼したコスモスの主人で視覚障がいを持つダリウシュ（フランソワ・ダミアン）の法廷内でのショットや、動物行動学者マルク（ジャン・パスカル・ザディ）と彼に心を許すコスモス、そしてポスタービジュアルにも使われた法廷に被告犬として証言台に立つコスモスを捉えた4点。

コスモスの無実を勝ち取るため奔走するアヴリルと飼い主ダリウシュたち。そして被告犬となったコスモスの行方は果たして…。

ユーモラスなコメディ映画にとどまらない現代社会への問題提起を描く本作は、初夏より全国順次公開。ぜひスクリーンで前代未聞の裁判を見届けてほしい。



■タイトル：『犬の裁判』

■コピーライト：

BANDE À PART - ATELIER DE PRODUCTION - FRANCE 2 CINÉMA - RTS RADIO TÉLÉVISION SUISSE - SRG SSR – 2024

■公開表記：初夏、シネスイッチ銀座・UPLINK 吉祥寺 他 全国順次公開

■配給：オンリー・ハーツ 劇場営業：トリプルアップ



戯れに充ちて、愉快で、知的。
完全に常軌を逸しているそのオフビートな特異性において大傑作。

——CINEEUROPA

カンヌ映画祭では、『アーティスト』で世界的に高い評価を受けたウギー以来、
最も表情豊かな犬の役者の登場だ。

——SCREENDAILY

ドッシュには明らかにコメディの才能がある。

——FILMFORIA



【ストーリー】負け裁判ばかりで事務所から解雇寸前の弁護士アヴリルは、次の事件では必ず勝利を勝ち取ろうと決意する。そんなときある男から、かけがえのない伴侶で絶望的な状況にある犬コスモスの弁護を依頼される。アヴリルはどうしても見過ごせず、またも勝ち目のない犬を弁護するという不条理に飛び込んでしまうだが——。

監督：レティシア・ドッシュ（初監督作品）

脚本：レティシア・ドッシュ、アン＝ソフィー・バイリー（『My Everything』監督、2025 横浜フランス映画祭出品）

出演：レティシア・ドッシュ、フランソワ・ダミアン、ジャン・パスカル・ザディ、アンヌ・ドルヴァル、コディ（犬）

マチュー・ドゥミ、アナベラ・モレイラ、ピエール・ドラドンシャン

2024 年/スイス・フランス/フランス語/81 分/1.85:1/原題：LE PROCES DU CHIEN/字幕：東郷佑衣

BANDE À PART - ATELIER DE PRODUCTION - FRANCE 2 CINÉMA - RTS RADIO TÉLÉVISION SUISSE - SRG SSR - 2024

配給：オンリー・ハーツ 劇場営業：トリプルアップ 後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ、在日スイス大使館

初夏、シネスイッチ銀座・UPLINK 吉祥寺他にて全国順次公開

【宣伝お問い合わせ】〈紙・電波・WEB〉フェルシュ 播磨 090-5311-5817/t.harima@felsh.co.jp